

令和6年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

- 令和6年度重点課題
- 1 学校運営体制の充実

2 人権教育の推進

3 学習指導の充実

4 進路指導の充実
- 5 生徒指導の充実

6 特別活動の活性化

7 安全教育と環境教育の推進

8 グローバル化に対応した教育の推進
- 9 特色ある学校づくりの推進

10 情報教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	①「目標管理シート」の申告・報告・校長面談を有効に活用し、学校の課題と次年度の目標を共有し、チーム市高として組織的な学校運営を行う。 学校目標の達成に向け、各学年、各分掌、各教科等での報告・連絡・相談を密にし、連携を図る。「学校運営協議会」を有効活用し、地域や関係機関との連携を図り、社会に開かれたカリキュラムの改善や地域とともにある学校づくりに努める。 ②風通しの良い職場環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。 職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やeラーニングによる研修を引き続き実施する。 ③指導と評価の一体化を念頭に、引き続き講習会や授業研究会に積極的に参加し、授業力の向上と改善に努める。
		①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」「②ややあてはまる」の回答率90%以上をめざす。	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率58.5%で、「②ややあてはまる」も同じく29.3%、合計回答率は87.8%で目標数値には届かなかったが昨年の82%を上回った。	(評定) A ----- (所見) ①本校の基本方針である3つの柱を踏まえた教育の実践のために、チームとして組織的に取り組んだことで、目標には届かなかったものの徐々に意識が向上している。	
		②eラーニング研修を含め職員朝会や職員会議での啓発を年15回以上実施する。	②全体の研修は①夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/31)、②県教委コンプライアンス推進室長による校内研修(8/29)、③冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/2～12/27)、3回実施できた。職朝等における啓発、注意喚起は16回(1月末現在)実施し、合計15回以上の目標は達成できた。	②各学期のeラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。	
		③「目標管理シート」の研修の項目の達成率90%以上を目指す。	③年度当初の研修計画を達成した職員は、「達成した」26%、「概ね達成した」73%で併せて99%あった。	③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上だけでなく、生徒指導や校務処理に取り組むことができた。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。	①校務運営委員会をはじめ各種委員会や各教科会、顧問会議などにおいて十分な議論を行い、従来のやり方に固執することなく、よりよい形になるよう共通理解を図りながら学校運営を行った。		
		②eラーニング研修は年間3回、月1回以上職員朝会や職員会議等で注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図る。	②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/31)をはじめ、外部講師による研修も含めて年間3回のeラーニング研修を実施した。時機に応じた注意喚起をその都度行い、コンプライアンス意識の向上につなげることができた。		
		③校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。	③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を昨年度より一人あたりの時間を確保する形で実施し、年間2回の実施が達成できた。		

2 人権教育の推進		評 価 指 標	評価指標の達成度	総合評価	
	①人権ホームルーム活動の充実を図る。	①全学年5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。 ①全学年1回以上の先行授業及び公開授業を実施する。	①HR活動 1年生…5回、2年生…5回、3年生…5回 ①先行授業 1年生…2回、2年生…2回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。	(評定) B ----- (所見) ①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づいた活動を実施し、概ね目標どおりの成果をあげることができた。3年生の問題意識調査で9割以上の生徒が「市高での人権教育は有意義であった」と回答した。これまでも目標としてきた生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近なものとして捉えられる授業内容を積極的に取り入れていきたい。	・3年生の問題意識調査では、9割以上の生徒が「人権教育は有意義」と回答、ほぼ指標通りの成果を達成できた。従来の形での指標はうまくいっているが、新しい研修のあり方や内容についても事前の準備を工夫する必要がある。 ・委員からは人権教育の成果を評価しつつ、新しい研修のあり方についての提案への支持があった。 ・総括として、現行の人権教育が生徒に有意義と感ぜられていることは評価できるが、新しい研修のあり方や内容についての工夫も必要であるとの意見もあり、今後、従来の指標を維持しつつ、新しい研修方法を模索することが求められた。
	②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。	②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②「市高人権新聞」は年間3回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。 ②市高祭「人権展」で来場者200人以上を目指す。	②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 ②市高人権新聞を年間3回発行。 第2号、3号にそれぞれ8名の人権委員が担当した原稿を掲載した。 ②「人権展」のために模造紙14枚、絵本を1作品作成した。今年度は市高祭が公開となり、来場者は219名であった。	②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができている。特に市高祭の「人権展」は、保護者や一般の方と人権問題を通じて繋がることのできる重要な場となり、人権委員が問題に取り組むための大きな刺激となっていた。	①人権ホームルーム活動のテーマ設定は時代に沿って柔軟に決められており、生徒の関心を高める内容になっている。そこで、人権委員がファシリテーターとなって行う授業の実現を推進したい。そのためには、クラス担任と人権委員の意思疎通が必要であり、その橋渡し役として人権教育課が機能するように努める。
	③人権教育職員研修会の充実を図る。	③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。	③PTA研修は2回、校内研修は4回開催することができた。	③人権教育職員研修は、計画通り2回実施できた。またPTA研修も実施することができた。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度以降も工夫していく必要がある。	②「人権展」は人権委員にとって最大の行事であり、多くの方と人権問題についての対話ができる絶好の機会である。積極的に展示物の制作が進められるよう指導教員の丁寧な指導が求められる。しかし、生徒の負担が大きくなりすぎない配慮が必要である。人権問題研究部の活動が活性化しており、次年度は活動の幅を広げていけるよう促していきたい。
		活 動 計 画	活動計画の実施状況		③本年度の研修は、動画を活用した自主研修、講師を招聘した講演を2回、現在本校で問題となっている事象をとりあげて考えてもらう研修を1回実施した。参加者の感想や意見については、職員間で共有できるようにClassiを活用した。次年度も本校教職員の要望を踏まえつつ、社会的状況に応じた研修を実施したいと考えている。
		①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。 ①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。 ①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。	①1年生は身近な人権問題を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に、アイヌの人々や同和問題、ハンセン病等についてを学習した。 3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。 ①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。 ①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。 ①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。		
		②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②人権ホームルーム記録用紙を作成する。 ②「市高人権新聞」を発行する。 ②市高祭で「人権展」を開催する。 ②「人権啓発作品展示」を実施する。	②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。 ②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。 ②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。 ②人権展のためのレポート作成を夏休みを利用して行い、その内容をもとに模造紙や絵本等を作成し、市高祭「人権展」を開催することができた。またその作品は後日エントランスに展示し、本校生徒や来客者に紹介した。 ②2月に人権啓発作品展を実施した。		
		③校内研修を実施する。	③1学期に2回、2学期に2回、校内研修等を実施した。内容は、1学期に「差別表現への対処法について学ぶ」、夏季休業中に「令和版ネットいじめの現状		

		③PTA研修を実施する。	と対策」、9月に「ヤングケアラーの現状について」、12月に「教職員の人権意識を高めるために」とした。 ③上記9月の校内研修はPTAと合同で実施することができた。また3学期の人権意見発表会については、昨年度同様、PTA役員、発表者の保護者の方々に案内を出す予定である。			
3 学習指導の 充実	①授業日数・授業時数の確保に努める。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	・授業日数の確保はされており、分かりやすく魅力ある授業により生徒の授業満足度は92.9%と、昨年より上昇、一方で予習時間が減少しており、学習習慣の定着が課題である。 ・学校図書館の学習センター機能の充実が図られている。また図書委員主催のビブリオバトル等が行われ、利用人数は目標に近い数値を達成。一方で貸出冊数は総合評価にあるような理由で指標には届かなかった。 ・委員や学校関係者からは、授業満足度の上昇や学校図書館の利用促進が評価される一方で、学習習慣の定着や予習時間の確保が課題として挙げられた。	①評価の時間が必要になり各学期末の行事の見直しや精選をしていく必要がある。 ②生徒の授業満足度は昨年より上昇した。上昇幅も例年より大きい。一方で授業参観や授業評価の実施率が低迷している。今年度は複数回の呼びかけも行ったが大きな改善は見られなかった。教員の空き時間に余裕がないことが原因の一つであると考えられるが、日程の検討やさらなる呼びかけの工夫をして、実施率を上げていく必要がある。 ③早期からの学習習慣の定着のために、更なるアダプティブラーニングの推進に努めたい。 ④新課程入試の傾向に対応できるように、評価のあり方を随時改善していきたい。 ⑤進路指導目標や生徒の実態に即した環境整備に向け、改善を図る必要がある。 4技能の定着・向上を継続して推し進め、新課程入試に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。 ⑥キャリアパスポートを活用して、学習の振り返りを拡充し、学力の向上につなげたい。また、キャリアパスポートをとoshi
		①授業時数を950時間以上確保する。	①授業時数確保のため各学期定期考査後の日程を見直しが、評価の時間に割いたため、昨年度より授業時数が減少した。 3学期末までの授業時数 今年度1036(予定)	(評定) B		
	②わかりやすく、魅力ある授業に努める。	②(1年)「学習のかたち週間」を1学期と2学期の初めに実施する。 (2、3年)「学習のかたち週間」を1学期に実施する。 ②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。	②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2、3年 1回実施 ②授業満足度は92.9%で昨年より5.2%上昇した。 ②1.2学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。	(所見) ①生徒にとってわかりやすく魅力ある授業を目指し、校内授業参観等による改善の努力を今後とも継続したい。 ②授業参観や授業評価を通して、授業改善に取り組み、目標値を上回る満足度となった。 ③定期考査前の学習時間は昨年度と比べて低下した。改善に向けて取り組む必要がある。		
		③学習習慣の定着を図る。	③2学期末の調査では、1年生34.3%。2年生31.4%であった。(昨年度1年生35.6%、2年生47.1%) ③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力とその内容を項目毎に整理した。 ③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議した。	②授業参観や授業評価を通して、授業改善に取り組み、目標値を上回る満足度となった。 ③定期考査前の学習時間は昨年度と比べて低下した。改善に向けて取り組む必要がある。		
	④思考力、判断力、表現力を育成する。	④定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし50%以上を目標とする。 ④定期考査後に「振り返りの時間(リフレクションタイム)」を設定し、取組に対する成果と課題について自己評価させる。 ④学年団を中心とする学力向上研究会を各学期に1回以上開催し、学力や学習状況についての分析、共有、協議を行う。	④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。	④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を工夫することに引き続き取り組みたい。		
		⑤英語4技能を育成する。	⑤1、2年生で3回すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4技能の育成を図った。 ⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。	⑤事後の指導の拡充や適切な評価が必要である。		
	⑥多面的評価を図る。	⑥すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑥英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。	⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをキャリアパスポートに記録させた。 ⑥配信課題を準備し、入力作成させた。	⑥定期考査後の学習への取組に対する振り返りは定着した。		
		⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。	⑦図書館便り8回・新着図書案内8回発行(12/31現在)開館日数165日で、利用延べ人数4、845人、一般貸出(生徒個人+団体)冊数520冊。(12/31現在)	⑦今年度の利用人数は12/31現在でほぼ目標に近い数である。		

⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る。

⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のある生徒の割合50%以上を目指す。

⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。

活 動 計 画	
①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。	
①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。	
②各学期の第一週を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。	
②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。	
②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し教師相互の授業改善に努める。	
③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。	
③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。	
④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。	
⑤ICT環境の整備を計画的に進める。	
⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。	
⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。	
⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。	
⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に努める。	
⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。	
⑧各学年において、地歴科・公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。	

⑧今まで新聞を読む習慣が無かった生徒(3年生)が87.7%いたが、42.5%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然57.5%の生徒に読む習慣がない。昨年46.6%

⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。

活動計画の実施状況	
①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。	
①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始めることができた。	
②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。	
②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させるとともに各教科で授業改善に取り組んでいる。	
②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。	
③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。	
③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。自習室を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30に年間を通じて開放した。1月24日まで222日開放。	
④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。	
⑤重点目標を踏まえた環境整備ができつつある。	
⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施するとともに、本校を準会場として検定を3回実施した。	
⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。	
⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体性、協働性などについて評価する機会を増やした。	
⑦各教科や学年と連携して図書館を利用したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。	
⑧2年生：公共・3年生：政治経済（文系）において、新聞記事を利用した発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。	
⑧1学年：講演、2学年：体験型授業を実施し、社会参画の意義について考えた。なお、3学年で予定されていた年金セミナーについても、社会保障の役割について意識を高める貴重な機会となった。	

一方、貸出冊数の減少はオリエンテーションで貸出をしなかったためであるが、図書委員主催の図書館展や1・2年生対象のビブリオバトルを実施し、読書活動啓発には一定の成果をあげている。継続して貸出冊数増加に取り組んでいきたい。

⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合的な探究の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が、全体の82.5%を占めていたが、2学期末には、48.2%の生徒が「読む機会を設けるようになった」と回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており、社会への関心が高まっていると考えられる。

て、多面的・総合的評価の充実をはかりたい。

⑦貸出冊数の減少は、1年生のオリエンテーションで一人1冊の貸出をしなかったためである。1年生は1学期末にビブリオバトルを行い、夏休みには読書感想文を課していることから、次年度は、1学期末に一人1冊必ず貸出を行う。今後も読書習慣の定着と図書館利用の促進を積極的に行い、「魅力ある図書館」作りに取り組んでいきたい。

⑧新聞を購読していない家庭やネットニュースで情報を入手している生徒が増えているため、学校での新聞を使った取り組みの意味合いが高まっていると言える。成人年齢も引き下げられたことから、更に主権者として必要な社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。

4 進路指導の 充実	①生徒一人ひとりの 進路希望の実現に 努める。 ②IRP活動の充実を 図る	評 価 指 標 ①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的に実施する。 ①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。 ①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。 ①難関大学（旧帝大・東科大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。	評価指標の達成度 ①3学年は4回実施した。1、2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。 ①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。 ①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。 ①合格者8名（旧帝大:0名 神戸大:0名 国公立大医学部医学科:7名 早稲田:1名 慶応:0名）(2月17日現在)	総合評価 (評定) B (所見) ①今年度も1・2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。学力を多面的・総合的に評価する大学は引き続き増加しており、これに対応する支援体制の拡充が今後とも必要となる。 ②IRPにおいては産学官連携で、探究活動を実施するとともに調査・研究手法も学ぶことができた。また、京大、東大、徳大を中心とした高大連携事業は昨年度より積極的に実施できた。	・進路検討会の実施状況や今年度の医学部、難関大学の合格者数などが報告された。 ・IRPの満足度は84.1%で、昨年より上昇、1年生が市長との対話で地域活性化の提案を行うなどの活動が評価された。 ・東京大学や京都大学で理数科セミナーを実施した。予算的な制約がある中で、効果的な実施方法を模索していることを報告した。 ・委員から医学部志望者の多さが指摘され、研究者や他の専門職進路への選択肢についても指導を充実させる必要性の提案があった。担当からは進路検討会や面談の実施状況が報告された。医学部志望者について理数科生徒の現状や総合型選抜や推薦入試の活用が説明された。 ・委員や学校関係者からは、進路検討会や面談の実施、IRP活動の充実が評価された。一方で、医学部以外の進路選択肢の指導の提案や、理数科セミナーの予算的な課題が議論され、今後の取り組みとして、これらの課題に対する改善策が求められた。	①学力向上研究会を立ち上げ、学力の分析、学習習慣の定着、進路意識の高揚のため、組織的に取り組む体制ができている。今後も内容を充実させ、目的が達成できるように努めていきたい。また、新課程入試についての情報収集に努め、教職員間で情報を共有するとともに、生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。 ②高大連携は引き続き徳大、京大を中心としながら、東大との繋がりを強化したい。京大との連携は、四国圏高大連携ネットワークに参加し、3年目となる。より充実した事業を期待したい。一方、徳島大学との連携では医学部JSLは、終了となったが、5年振りに医学部スキルラボを実施した。また、歯学部JSLと生物資源産業学部JSLは継続している。今後も学部開拓を進めたい。東大からは、市高フォーラムで東大教授を招聘した。 マイナビのオンラインスタディプランは導入から3年が経ち、廃止の方向である。今後は情報と連携しながら、課題発見解決学習を進めることとなる。2年生は、産学官連携の3年目となる。2年目もまずまずの成果を収めたが、協力して頂ける企業との相性も考えながら、本校に定着していくよう、細かな部分を整備したい。また、行政も含めた複数連携に取り組みたい。
		活 動 計 画 ①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。 ①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。 ①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをとおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。 ①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。 ①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。	活動計画の実施状況 ①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。 ①生徒の状況を把握し、上級学年を意識した声かけを行うため、面談を実施している。 ①正確なデータや適切な資料を用い、生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。 ①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し、情報提供や進路意識の高揚に努めた。 ①高大接続改革、新課程についての研修に参加したいが、「夢実現事業」の廃止により、先進校視察や研修課への参加が困難となった。代わりに「知財学推進事業」や「DX事業」を利用した。刻一刻と高大民間での連携事業は増加しており、校外やオンラインでの体験学習の参加を掲示板やclassiを用いて促した。今年度も大学や研究所、民間企業とと連携し、生徒の参加できる機会を提供している。			
		評 価 指 標 ②京都大学や東京大学の他、徳島大学や甲南大学との高大連携事を継続・充実させ、広い教養をもとに最先端の学知にふれる。	評価指標の達成度 ②東京大学で、理数科セミナーを実施。本校卒業生の在籍も確認され、今後も理数科セミナーを実施できる環境であった。今後、東大との継続的な連携について必要性を感じる。京大との高大連携事業は、四			
		活 動 計 画	活動計画の実施状況			

				国圏広大連携ネットワークへ移行。今後もますますの連携が見込まれる。甲南大学とは6年目になる「関西湾岸SDGsチャレンジ」に、4名の生徒が参加した。徳島大学は、教養教育院と「多言語ラボ」、「多文化キャラバン」、「留学生交流会」を実施。歯学部と生物資源産業学部でJSLを実施。医学部ではスキルスラボが復活した。また、2年生IRPを中心に、徳大・鳴教大・文理大・四国大からも講師を招聘した。																	
5	生徒指導の充実	<table><tr><th>評価指標</th><td>①登校指導を適宜行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①ヘルメット着用啓発運動を年2回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。</td></tr><tr><th>評価指標の達成度</th><td>①登校指導は年間を通じて毎日行った。 ①学年集会を1年3回、2年3回、3年2回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。</td></tr></table>	評価指標	①登校指導を適宜行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①ヘルメット着用啓発運動を年2回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。	評価指標の達成度	①登校指導は年間を通じて毎日行った。 ①学年集会を1年3回、2年3回、3年2回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。	<table><tr><th>評価指標</th><td>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</td></tr><tr><th>評価指標の達成度</th><td>②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.7人、2年2.3人、3年5.8人であった。(昨年度2.2人)</td></tr></table>	評価指標	②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。	評価指標の達成度	②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.7人、2年2.3人、3年5.8人であった。(昨年度2.2人)	<table><tr><th>評価指標</th><td>③教育相談担当者と希望者による校内研修会を1回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。</td></tr><tr><th>評価指標の達成度</th><td>③精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</td></tr></table>	評価指標	③教育相談担当者と希望者による校内研修会を1回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。	評価指標の達成度	③精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。	<table><tr><th>総合評価</th><td>(評定) B ----- (所見) ①定期的に、集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は昨年度と比べて増加した。次年度は服装・身だしなみを徹底するために強化週間を設定したい。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</td></tr></table>	総合評価	(評定) B ----- (所見) ①定期的に、集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は昨年度と比べて増加した。次年度は服装・身だしなみを徹底するために強化週間を設定したい。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。	- 遅刻防止のための取り組みを説明、遅刻者数の増加について調査期間や体調不良や成長性障害などの原因を報告、来年度は数値が正確に反映されるように修正していくことが説明された。委員からは遅刻者数の増加についての懸念と、遅刻防止の取り組みの重要性を提言された。 - 養護教諭を中心に、生徒や教員が参加できる「心と体を整える講座」の実施状況を報告し、生徒の心と体のケアに努めていることが報告された。 - 委員や学校関係者からは、遅刻防止の指導や「心と体を整える講座」の実施が評価されたが、遅刻者数の増加は課題で、遅刻防止のための対策や指導方法の改善が提言された。	①登校指導は毎日実施している。来年度も継続したい。 ①学年集会を通して、交通マナーやモラルについて指導を行った。 ①交通マナーアップ運動は月1回実施している。中央署と協力して取り組んだ。来年度も継続していく。 ①「円満な学校生活についてのアンケート」で生徒の小さな気づきを大事にすることができた。 ②遅刻者は様々な理由があるので、遅刻率を減らしていくことを目的とするのは難しいと考えている。 来年度、数値化していく項目は、ヘルメット着用率にしたいと考えている。 ③生徒の状況に応じたケース会議の充実や関係機関との連携をさらに強化し、早期の対応ができるよう心がける必要がある。
評価指標	①登校指導を適宜行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①ヘルメット着用啓発運動を年2回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。																				
評価指標の達成度	①登校指導は年間を通じて毎日行った。 ①学年集会を1年3回、2年3回、3年2回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。																				
評価指標	②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。																				
評価指標の達成度	②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.7人、2年2.3人、3年5.8人であった。(昨年度2.2人)																				
評価指標	③教育相談担当者と希望者による校内研修会を1回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。																				
評価指標の達成度	③精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。																				
総合評価	(評定) B ----- (所見) ①定期的に、集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は昨年度と比べて増加した。次年度は服装・身だしなみを徹底するために強化週間を設定したい。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。																				
6	特別活動の活性化	<table><tr><th>評価指標</th><td>①部活動加入率90%以上。</td></tr><tr><th>評価指標の達成度</th><td>①部活動加入率 1年87% 2年83% 3年84% 全体85%</td></tr></table>	評価指標	①部活動加入率90%以上。	評価指標の達成度	①部活動加入率 1年87% 2年83% 3年84% 全体85%	<table><tr><th>総合評価</th><td>(評定) B</td></tr></table>	総合評価	(評定) B	部活動加入率は90%近くあるが、昨年度より減少した。成果として四国大会以上の出場部数はクリア	①継続して部活動加入率の増加と競技実績の向上に努めていきたい。										
評価指標	①部活動加入率90%以上。																				
評価指標の達成度	①部活動加入率 1年87% 2年83% 3年84% 全体85%																				
総合評価	(評定) B																				

	②ボランティア活動や生徒会活動を活性化する。	①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。 ②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する。	①四国大会以上の出場部数 四国大会 11部 全国大会 11部 ②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。	(所見) ①部活動加入率はすべての学年において目標値を下回った。しかし、四国大会以上の出場部では目標値を上回るなど、部活動に取り組む生徒の質は低下していない。部活動の実績を維持しながら、さらに部活動が活性化できるよう取り組んでいきたい。 ②生徒会新聞の作成は計画通りに行うことができたが、記事の内容は見直していく必要がある。	しているが、全国大会での成績向上が課題であることが報告された。 ・委員からは中学校の部活動の地域移行が進んでいる現状から高校との連携の重要性を指摘され、部活動の存続やクラブチームとの関わりについての懸念と、高校の対応について質問された。それに対し校長が部活動の地域移行に伴う課題を認識し、クラブチームとの連携や情報収集の必要性を認識しており、中学校との連携をさらに強化し、部活動の存続と発展を目指すことを回答した。 ・委員や学校関係者からは、部活動加入率の減少や全国大会での成績向上が課題であることや、部活動の地域移行やクラブチームとの連携についても議論され、これらの課題に対して対応する必要があると提言された。	②校内ボランティア活動は年3回の実施を継続して実施したい。 各種委員会による活動を活性化させていきたい。 生徒会新聞「フリーダム」をもっとタイムリーな内容にしていきたい。 部活動や生徒会などの活動状況をホームページに掲載するなど、広く発信できるよう工夫していきたい。
		活 動 計 画 ①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行式・賞状伝達式で意識の高揚を図る。	活動計画の実施状況 ①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①気温や感染状況等に応じて、実施形態を対面かリモートかを使い分けて、全校生徒に報告した。			
		②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。 ②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。	②校内美化活動を学期に1回実施した。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。			
7	安全教育と環境教育の推進	評価指標 ①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球環境問題について理解を深め、環境を守るための行動をとることができる人材の育成に取り組む。 ②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。 ③安全教育を推進するとともに、安全	評価指標の達成度 ①節電・節水に努めた。 ①ゴミの分別、減量化に努めた。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努めた。 ①校内美化活動 6回実施 ①学校周辺地域の清掃活動 2回実施 ②防災に関心の高い生徒の割合78.8% (2学期末(1・2年)生徒授業自己評価結果より) 昨年度 76.5% 一昨年度 67.7% (1学期末(全学年)生徒授業自己評価結果より) ②防災士の希望者はなかった。 ②防災HRを計画し、1回実施することができた。 ③学校安全の日に合わせ、救急箱・救急鞆、AED、担架、車椅子等の安全点検を年間12回実施すること	総合評価 (評定) A (所見) ①「とくしまGXスクール」認定校として、脱炭素社会実現に向けた持続可能な社会の創り手の育成を目指して活動した。環境とSDGsとの関わりについて学習を深め、その成果が家庭や地域に広がっていくよう取り組んだ。「分別」「清掃」「リサイクル」が当たり前になるよう呼びかけた。加えて、節	・職員室や各教室に古紙回収ボックスを設置、ごみの減量化に努め、生徒や部活動顧問を含めた教員にも分別指導の指導を行っていることを報告。生徒たちの意識も変わってきていることが評価された。 ・委員から実際の避難訓練が生徒の防災意識向上に寄与していることを評価され、津波避難訓練の具体的な実施内容について、避難経路や手順の確認を求められた。それに対し、防災訓練の実施状況を説明し、全員を上階に避難させる訓練を行ったことを報告、生徒と教員の連	①環境美化への取り組みに対する生徒評価が上がっているので、引き続き各種取り組みを実施していきたい。また、学校祭などの機会を利用して、校内の取り組みを保護者や地域に発信し、環境活動を広げていきたい。 ②防災HRを実施し、災害対応を自らの問題として考える機会をつくりたい。また、防災・減災について啓発を行う機会を作り、意識を高めていきたい。 避難訓練では、感染症予防対策なども視野に入れながら、計画の見直し

	管理の一層の充実を図る。 ③心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症対応等に関する職員研修を年1回以上、1学年生徒対象に救急法講習を開催する。 ③保健だよりを月に10回以上発行し、その内安全に関する内容を年間4回以上発行する。 （＊③は保健室経営計画を兼ねる） <table> <tr> <th>活 動 計 画</th><th></th><th>活動計画の実施状況</th><th></th></tr> <tr> <td> ①毎月の電力、水道使用量を調べ、去年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内環境UP活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。 </td><td></td><td> ができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症研修を1回実施した。また、熱中症予報ボード等を活用して熱中用予防に努めた。 ③年間12回発行した保健だよりのうち、その内安全に関する内容を年間5回発刊できた。 </td><td></td></tr> <tr> <td> ②年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。 ②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。 ②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。 </td><td></td><td> ②1・2学期に防災訓練を各1回実施した。新型コロナの5類移行をうけて、本来の避難場所であるメインアリーナへの避難集合を実施することができた。また、津波避難を想定した、2次避難のため校舎本館4・5階への避難を実施することができた。 ②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。 ②防災HRを計画し、実施した。 </td><td> ②校内での取り組みとして避難訓練を実施した。津波発生を想定して、本館4・5階への2次避難も実施することができた。2次避難時の状況を把握し、心づもりをする機会となった。また、2月に実施した防災HRでは、防災への意識高揚とともに自分や周囲の人の生命を守るためには、日頃からの備えが大切であることを再確認した。 ③保健委員会の活動や保健だより、掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋がった。職員研修では、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。 </td></tr> <tr> <td> ③毎月1回AED・車椅子・担架・救急鞆の点検・管理等を行う。 ③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。 ③文化祭保健展や保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げる。 </td><td></td><td> ③保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。学校安全の日にはAEDの点検を実施し記録した。 ③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施したが、シミュレーションを取り入れた実践的な内容とまではいかなかった。 ③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーや文化祭保健展において発信したり、クラスで呼びかけを行うなど、保健委員による啓発活動を行った。 </td><td></td></tr> </table>	活 動 計 画		活動計画の実施状況		①毎月の電力、水道使用量を調べ、去年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内環境UP活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。		ができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症研修を1回実施した。また、熱中症予報ボード等を活用して熱中用予防に努めた。 ③年間12回発行した保健だよりのうち、その内安全に関する内容を年間5回発刊できた。		②年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。 ②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。 ②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。		②1・2学期に防災訓練を各1回実施した。新型コロナの5類移行をうけて、本来の避難場所であるメインアリーナへの避難集合を実施することができた。また、津波避難を想定した、2次避難のため校舎本館4・5階への避難を実施することができた。 ②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。 ②防災HRを計画し、実施した。	②校内での取り組みとして避難訓練を実施した。津波発生を想定して、本館4・5階への2次避難も実施することができた。2次避難時の状況を把握し、心づもりをする機会となった。また、2月に実施した防災HRでは、防災への意識高揚とともに自分や周囲の人の生命を守るためには、日頃からの備えが大切であることを再確認した。 ③保健委員会の活動や保健だより、掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋がった。職員研修では、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。	③毎月1回AED・車椅子・担架・救急鞆の点検・管理等を行う。 ③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。 ③文化祭保健展や保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げる。		③保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。学校安全の日にはAEDの点検を実施し記録した。 ③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施したが、シミュレーションを取り入れた実践的な内容とまではいかなかった。 ③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーや文化祭保健展において発信したり、クラスで呼びかけを行うなど、保健委員による啓発活動を行った。		電・節水など身近に取り組める環境アクションにも進んで取り組めるよう機会あるごとに啓発を行った。 ②委員や学校関係者からは、ごみの減量化や分別指導の取り組みが評価された。また、防災訓練の実施が生徒の防災意識向上に寄与していることが確認され、今後の取り組みとして、避難手順の改善や連絡手段の確保が課題であることが確認された。	や実行に取り組みきたい。 例年、募集以上の防災士を希望する生徒がいるが、今年度は、希望がなかった。次年度は、防災士資格取得者を育成したい。 津波避難に向けた2次避難の訓練は実施できたが、地域との共同訓練も考えていきたい。防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。 ③保健委員会による日々の活動や保健だよりの発行、文化祭の保健展のような学校行事の機会を捉えて、継続して安全や健康に関する意識を高めていきたい。 職員研修については、実践的な研修となるよう事例等を多く取り入れ、資質・能力の向上に繋げていきたい。
活 動 計 画		活動計画の実施状況																	
①毎月の電力、水道使用量を調べ、去年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内環境UP活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。		ができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応・熱中症研修を1回実施した。また、熱中症予報ボード等を活用して熱中用予防に努めた。 ③年間12回発行した保健だよりのうち、その内安全に関する内容を年間5回発刊できた。																	
②年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。 ②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。 ②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。		②1・2学期に防災訓練を各1回実施した。新型コロナの5類移行をうけて、本来の避難場所であるメインアリーナへの避難集合を実施することができた。また、津波避難を想定した、2次避難のため校舎本館4・5階への避難を実施することができた。 ②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。 ②防災HRを計画し、実施した。	②校内での取り組みとして避難訓練を実施した。津波発生を想定して、本館4・5階への2次避難も実施することができた。2次避難時の状況を把握し、心づもりをする機会となった。また、2月に実施した防災HRでは、防災への意識高揚とともに自分や周囲の人の生命を守るためには、日頃からの備えが大切であることを再確認した。 ③保健委員会の活動や保健だより、掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋がった。職員研修では、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。																
③毎月1回AED・車椅子・担架・救急鞆の点検・管理等を行う。 ③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。 ③文化祭保健展や保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げる。		③保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。学校安全の日にはAEDの点検を実施し記録した。 ③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施したが、シミュレーションを取り入れた実践的な内容とまではいかなかった。 ③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーや文化祭保健展において発信したり、クラスで呼びかけを行うなど、保健委員による啓発活動を行った。																	

8		評 価 指 標		評価指標の達成度		総合評価	・国際交流と多文化教育の	①サギノー語学研修や台湾
---	--	----------------	--	-----------------	--	-------------	---------------------	---------------------

グローバル化に対応した教育の推進	①グローバル化に対応した教育を推進する。	①台湾やサギノーとの交流、多文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ（中国語・ドイツ語）、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。	①サギノーへの短期留学は昨年4年ぶりに実施してから、今年は2度目。台湾姉妹校への短期留学も2年連続で実施できた。多文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会も実施され、各満足度は80%を超えた。（平均86.5%）参加者は、多文化キャラバン15名、多言語ラボ中国語19名、ドイツ語は20名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。1月の留学生交流会も対面での実施し、昼食会も行った。9月には、徳島の留学生による高校体験も実施され、授業の他、部活動へも参加した。	(評定) A ----- (所見) ①世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらに念願であったサギノー短期留学や台湾姉妹校への短期留学も実施でき、グローバル教育を推し進めることができた。	実施状況及び満足度が報告され、いずれも目標を超える高い満足度であることが評価された。費用面での制約がある中で、引き続きグローバルな教育を推進する意向を示した。 ・委員からは短期留学が長期留学への意欲を高めることを指摘。留学経験者の進路についての追跡調査の重要性を強調し、外務省などへの進路例を挙げられた。また校長からも留学経験が生徒の積極性や人間性の向上に寄与していることが強調された。 ・委員や学校関係者からは、国際交流や多文化教育については満足度が高く、今後も活動を継続・発展させることが求められた。また、留学経験者の進路についての追跡調査や、費用面での課題に対する対応が課題として挙げられた。	研修が行われ、充実した事業が実施できた。多文化キャラバンで文理大学留学生との交流はあまりなかったが、徳島大学と連携している多言語ラボ、徳大留学生交流会は予定通り実施できた。本年度は、大学の担当教授が替わったことで多少の混乱が見られたが、次年度はこれまで通りの事業をスムーズに継続したい。ただし、台湾研修に関しては、教員の負担軽減も含め隔年での実施としていきたい。												
		<table><tr><th>活 動 計 画</th></tr><tr><td>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。 ①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。 ①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。 ①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。</td></tr></table>	活 動 計 画				①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。 ①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。 ①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。 ①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。	<table><tr><th>活動計画の実施状況</th></tr><tr><td>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。 ①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。 ①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学への研修(14名)では、多文化を直接体験する良い機会となってる。今後も研修を継続させたい。</td></tr></table>	活動計画の実施状況	①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。 ①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。 ①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学への研修(14名)では、多文化を直接体験する良い機会となってる。今後も研修を継続させたい。								
活 動 計 画																		
①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島の探究を進め、地域に出向き、現状を理解する。 ①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。 ①台湾・国立潮州高級中学、サギノー大学との交流を通じて、アジアや欧米の高校生から幅広い知識を吸収する。 ①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。																		
活動計画の実施状況																		
①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。 ①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。 ①サギノー短期留学(15名)、台湾国立潮州高級中学への研修(14名)では、多文化を直接体験する良い機会となってる。今後も研修を継続させたい。																		
9 特色ある学校づくりの推進	①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。 ②保護者と積極的に情報交換し、日頃の教育活動に生かす。 ③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。 1 市高祭の公開 2 体験入学等の実施	<table><tr><th>評 価 指 標</th></tr><tr><td>①学校ホームページへのアクセス件数、年間 200,000 件以上を目指す。</td></tr><tr><td>②PTA関係行事について、内容の充実と保護者・教の負担軽減の両立を目指し、内容を検討した上で、PTA総会や各種研修会の参加率を増やす。</td></tr><tr><td>③市高祭の入場者数1,200人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザール等の参加団体数42以上を目指す。 ③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。 ③オープンスクールの参加者数200人以上を目指す。</td></tr><tr><th>活 動 計 画</th></tr></table>	評 価 指 標	①学校ホームページへのアクセス件数、年間 200,000 件以上を目指す。	②PTA関係行事について、内容の充実と保護者・教の負担軽減の両立を目指し、内容を検討した上で、PTA総会や各種研修会の参加率を増やす。	③市高祭の入場者数1,200人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザール等の参加団体数42以上を目指す。 ③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。 ③オープンスクールの参加者数200人以上を目指す。	活 動 計 画	<table><tr><th>評価指標の達成度</th></tr><tr><td>①アクセス数158,278件（4/1～1/15） 昨年度239、893件</td></tr><tr><td>②PTA総会の参加率 35.3% 昨年度は37.2% 3年対象進路説明会 75.0% 昨年度76.4%</td></tr><tr><td>③市高祭の入場者数 1,823人 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42団体 ③学校説明会参加者名424名 ③オープンスクール参加者226名</td></tr><tr><th>活動計画の実施状況</th></tr></table>	評価指標の達成度	①アクセス数158,278件（4/1～1/15） 昨年度239、893件	②PTA総会の参加率 35.3% 昨年度は37.2% 3年対象進路説明会 75.0% 昨年度76.4%	③市高祭の入場者数 1,823人 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42団体 ③学校説明会参加者名424名 ③オープンスクール参加者226名	活動計画の実施状況	<table><tr><th>総合評価</th></tr><tr><td>(評定) B ----- (所見) ①学校行事や授業の様子の記事と写真で配信し、保護者や中学生等に対して積極的な情報提供に努めた。 ②PTA総会の参加率は少し下がったが、概ね満足できるものである。その他の機会も含め、PTAとの連携を深め情報交換等</td></tr></table>	総合評価	(評定) B ----- (所見) ①学校行事や授業の様子の記事と写真で配信し、保護者や中学生等に対して積極的な情報提供に努めた。 ②PTA総会の参加率は少し下がったが、概ね満足できるものである。その他の機会も含め、PTAとの連携を深め情報交換等	・ホームページのアクセス数が減少しており、SNS等を活用した情報発信の工夫や強化が課題であることが報告された。 ・PTA総会については参加率は昨年並みだが若干減少した。この参加率を維持・向上させるための取り組みが必要であることが報告された。 ・市高祭の入場者数は目標を大きく上回る人数が来場。県内で最も活気ある文化祭として評価された。 ・委員からは市高祭の成功が評価され、地域やOB、O	①ホームページへのアクセス数はほぼ昨年並みであり、中学生、地域の関心の高さが窺えた。 ②PTA総会の参加率の数値は少し下がったが、概ね、昨年並みの参加率なので、この水準を維持するよう周知と呼びかけを行っていききたい。 家庭教育部文化教養講座は、陶芸と皮工芸を行いアンケートでも高評価だった。PTA会員が交流できる貴重な機会となっているので、参加率をあげ、満足できるような内容を今後も継続して検討していききたい。
評 価 指 標																		
①学校ホームページへのアクセス件数、年間 200,000 件以上を目指す。																		
②PTA関係行事について、内容の充実と保護者・教の負担軽減の両立を目指し、内容を検討した上で、PTA総会や各種研修会の参加率を増やす。																		
③市高祭の入場者数1,200人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザール等の参加団体数42以上を目指す。 ③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。 ③オープンスクールの参加者数200人以上を目指す。																		
活 動 計 画																		
評価指標の達成度																		
①アクセス数158,278件（4/1～1/15） 昨年度239、893件																		
②PTA総会の参加率 35.3% 昨年度は37.2% 3年対象進路説明会 75.0% 昨年度76.4%																		
③市高祭の入場者数 1,823人 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42団体 ③学校説明会参加者名424名 ③オープンスクール参加者226名																		
活動計画の実施状況																		
総合評価																		
(評定) B ----- (所見) ①学校行事や授業の様子の記事と写真で配信し、保護者や中学生等に対して積極的な情報提供に努めた。 ②PTA総会の参加率は少し下がったが、概ね満足できるものである。その他の機会も含め、PTAとの連携を深め情報交換等																		

		①ホームページの更新を年に150回以上行う。 ②PTA総会を円滑に実施するため実施方法や役割分担等について事前の調整や準備を行う。また配布物による案内だけでなく、classiやホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。 ②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。 ③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。 ③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。学校説明会を実施しない中学校にはDVDの配付に努める。	①158件（4/1～1/15） 昨年度同時期 260件 ②今年度は昨年を踏襲しつつ役割分担等を見直し、ほぼ同じようにPTA総会を実施できた。昨年度はコロナ禍の制限等への反動で大幅に増加したが、今年は、数値を少し下げた。しかしほぼ昨年並みの参加率となった。またclassiを利用した保護者への連絡等を4回以上行い、滞りなく実施することができた。 ②PTA家庭教育部主催文化教養講座のアンケートでは、内容について、「大変よかった」又は「よかった」の回答が100%で大変好評だった。また来年度以降の内容について多くの希望・意見をいただいた。 ③市高祭の「職員・保護者展」で教職員および保護者の作品を展示し、多くの方に鑑賞していただいた。また鑑賞についての感想のブースを設け、作品についての良い感想をいただいた。準備活動を含め、PTAの親睦と内容の充実に努めることができた。 ③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は9中学校で説明できた。	を行い、教育活動に活かすことができた。 ③学校説明会はあしかびホールにて7/2（金）と7/5（月）の2回で実施した。参加者は昨年度より増加し、457名であった。本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが窺える。	Gの方々の参加が多いことが指摘され、市高祭の伝統や活気を維持するための取り組みを提言された。また市高祭の入場者数増加の理由についての質問には、多彩な催しが魅力であることが確認された。その他、有名なOB、OGを招いたトークショーの実施などの提案があった。 ・総括として、市高祭の入場者数が増加し、地域やOB、OGの方々の参加が多いことが確認された。今後の課題は、ホームページのアクセス数向上やSNSを活用した情報発信の強化が挙げられ、市高祭における新たな取り組みの提案もされた。	③学校説明会や中学校での高校説明会などの開催できる機会を通じて、できるかぎり、中学生へ本校の魅力を情報発信していきたい。また、3Dバーチャル体験入学のコンテンツや、学校説明用のDVDを作成して中学校に広報して授業等で利用してもらうなどした。来年度はオープンスクールの参加人数等の制限をなくす予定である。												
10	情報教育の推進	<table><tr><td>評価指標</td><td> ①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。 ②生徒一人1台のタブレット端末の不具合に迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。 ③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。 </td></tr><tr><td>活動計画</td><td> ①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。 </td></tr></table>	評価指標	①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。 ②生徒一人1台のタブレット端末の不具合に迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。 ③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。	活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	<table><tr><td>評価指標の達成度</td><td> ①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を2回実施した。 ②不具合の事案を整理し、対応策を課内で共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。 ③研修会を通して、積極的ITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。 </td></tr><tr><td>活動計画の実施状況</td><td> ①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等をとおして、情報モラルの向上に取り組んだ。 </td></tr></table>	評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を2回実施した。 ②不具合の事案を整理し、対応策を課内で共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。 ③研修会を通して、積極的ITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。	活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等をとおして、情報モラルの向上に取り組んだ。	<table><tr><td>総合評価</td><td> (評定) A </td></tr><tr><td>(所見)</td><td> ①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。 ②タブレットの不具合に対する校内での対策を適切に行うことができた。 </td></tr></table>	総合評価	(評定) A	(所見)	①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。 ②タブレットの不具合に対する校内での対策を適切に行うことができた。	・教育DX加速化事業の資金を活用して情報教育を推進。地域の拠点として、小・中学校と連携しながら情報教育を進めること、また関係した設備を導入予定であり、生徒が物づくり教室で小・中学生に教える場を設ける計画であることを報告した。 ・情報に係る学校設定科目の導入で、理数・情報系の進路を目指す生徒の割合を増やすことを報告した。 ・委員からは地域の拠点としての役割やデータサイエンスやプログラム教育の重要性を指摘され、情報教育の推進に関する取り組みが評価された。 ・総括として、教育DX加速化事業の選定や設備の充実、カリキュラムの充実が評価された。今後の計	①タブレット端末や通信環境の不具合に教員と生徒が柔軟に対応できるようになった。 ②機器のトラブルに関して、タブレットの性能の問題と同時に、取り扱いにも問題が見られた。来年度は注意喚起を定期的に行っていくたい。
評価指標	①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。 ②生徒一人1台のタブレット端末の不具合に迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。 ③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。																	
活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。																	
評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を2回実施した。 ②不具合の事案を整理し、対応策を課内で共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。 ③研修会を通して、積極的ITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。																	
活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等をとおして、情報モラルの向上に取り組んだ。																	
総合評価	(評定) A																	
(所見)	①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。 ②タブレットの不具合に対する校内での対策を適切に行うことができた。																	

						画として、地域の拠点としての役割を果たしながら、小・中学校との連携を強化し、理数系・情報系の進路を目指す生徒の育成を進めることを確認した。	
--	--	--	--	--	--	---	--